

# 薬局で抗原簡易キットを購入する方へ

## 1. はじめに

発熱等、体調が悪いことを自覚した場合は、**直接、医療機関を受診するのではなく必ず医療機関に電話連絡し、受診について指示を受けて下さい。**

体調が気になる場合等に**セルフチェック**として本キットを使用し、**陽性結果が出た場合は、速やかに『釧路保健所』に連絡して下さい。（0154-65-5811）**

陰性の場合でも、偽陰性（過って陰性と判定されること）の可能性も考慮し、**症状がある場合には医療機関に連絡してから受診して下さい。**症状がない場合であっても、引き続き、外出時のマスク着用、手指消毒等の基本的な感染対策を続けて下さい。

※無症状者への使用は推奨されていません。

※症状がない時に使用した場合、結果が正しく出ない可能性があります。

## 2. 使用にあたって

① **あらかじめ検査に関する注意点、使い方等を勉強してから検査を実施します。**

（参考）検査に関する注意点、使い方等

以下の3に記載する「一般的な検査手順と留意点」に加えて、厚生労働省が以下のホームページで公開するWEB教材を参考にするとともに、各製品の添付文書における使用方法や使用するキットを製造するメーカーの提供するパンフレットや動画資料を必ず確認・理解した上で、検査を実施して下さい。

厚生労働省関連HP

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431\\_00270.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00270.html)

②**鼻腔ぬぐい液を、自分で採取して検査を行います。**

- ・鼻から綿棒を2cm程度挿入し、  
5回転させ、5秒程度静置します。



### 3. 一般的な検査手順と留意点

<検体採取（鼻腔ぬぐい液の自己採取）>

- ① 鼻孔（鼻の穴の入り口）から2cm程度綿棒を挿入する
- ② 綿棒を鼻の内壁に沿わせて5回程度回転させる
- ③ 5秒程度静置し、引き抜く
- ④ 綿棒が十分に湿っていることを確認する

※同居人等がいる場合は、被検者は、他者と向き合わない方向を向くか、他者とガラス等により隔てられた位置に移動して実施します。

※他者による検体採取は感染等のリスクを伴う可能性があり、また、鼻咽頭（鼻の奥）ぬぐい液の自己採取は危険かつ困難であるため、鼻腔ぬぐい液の自己採取によって行います。

<試料調製>

- ① 採取後ただちに綿棒をチューブに浸す
- ② 綿棒の先端をつまみながら、チューブ内で綿棒を10回程度回転させる
- ③ 綿棒から液を絞り出しながらチューブから綿棒を取り出し、綿棒を破棄する
- ④ 各キットに付属する蓋（フィルター、ノズル、チップ等）をチューブに装着する
- ⑤ 製品によってはそのまま一定時間静置する

<試料滴下>

- ① チューブから数滴（製品により異なる）、キットの検体滴下部に滴下する
- ② 製品毎に定められた時間（15分～30分程度）、キットを静置する

<結果の判定>

- ・ 判定の方法については、各製品の添付文書に加えて、判定結果を示している実際のキットの写真が含まれている各製品のパンフレット、動画資料等を確認して下さい。
- ・ 試料の滴下を行ってから判定を行うまでの時間は、製品毎に異なります。指定された時間を過ぎた場合、キット上に表示される結果が変わることがありますので、各製品の添付文書を確認し、特に陰性と判定する場合には、必ず指定された時間で判定して下さい。（陽性の判定については、指定された時間の前でも可能なキットもあります。）
- ・ キット上に表示される結果が明瞭でなく、判定が困難な場合には、陽性であった場合と同様に『**釧路保健所**』に連絡して下さい。
- ・ 抗原定性検査の結果を踏まえて被験者が感染しているか否かについての判断が必要な場合は医師に相談して下さい。

4. 検査後の対応判定結果	対 応
◎陽性の場合	・ 速やかに釧路保健所に連絡してください。（0154-65-5811）
◎陰性の場合	・ 偽陰性（過って陰性と判定されること）の可能性も考慮し、症状がある場合には、かかりつけ医等に電話連絡し、指示を受けてから医療機関を受診して下さい。 症状がない場合であっても、引き続き、外出時のマスク着用、手指消毒等の基本的な感染対策を続けて下さい。